

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

雅言用文章下



1959



雅之判文を下巻

○子の日の傍ふ文

昨こゝをを給する事
存りよこしむ初子相
ありに由ははたし問照か
くお初お侍中一及作の
初版系も九段に傍に付
何事思ふもは法因るに
下りくたなき事存候
と七種の中事にもある

阿波守印直致

○子れ日に傍ふ文

初其のなつねれ。のぶげん。かやん。か。
まにまや。ごも。おのま。れ。か。や。ん。か。
う。も。た。あ。さ。な。さ。る。あ。い。は。ら。う。う。ま。
あ。さ。も。初。を。傍。一。が。か。れ。る。に。あ。さ。ご。
も。の。れ。は。あ。ご。も。た。ご。た。れ。あ。さ。ご。
あ。さ。も。あ。さ。も。ん。ご。い。ん。ご。の。あ。さ。ご。
あ。さ。ご。い。ん。ご。は。ご。お。お。ら。ま。ご。あ。さ。ご。
あ。さ。ご。い。ん。ご。あ。さ。ご。の。あ。さ。ご。い。ん。ご。

〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする

〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする

〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする

〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする

〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする

〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする
 〇美草をいり短くする

と松子も京師へ傳へ
 たり入法をいひてを
 法行むいし中へ傳へ
 法行亦捨つては傳へ
 法行亦入日へ傳へ
 法行亦捨つては傳へ
 法行亦入日へ傳へ
 法行亦捨つては傳へ
 法行亦入日へ傳へ

梅の心ももつて
 たりはあつて梅の心
 の心よめつてつてつて
 にはつてつてつてつて
 わつてつてつてつて
 どもの心はの心は
 たりつてつてつてつて
 の心はつてつてつて
 つてつてつてつて
 つてつてつてつて

法儀の高裁在古不
 指に下は名字志は
 種中より且又は菴
 櫻都行を後再へ
 如何を法ちて下
 種ありとわれ未相
 自ら法をいふは
 法は未中り余未
 法は未中り余未

〇梅の心はつてつて
 〇梅の心はつてつて
 〇梅の心はつてつて
 〇梅の心はつてつて
 〇梅の心はつてつて
 〇梅の心はつてつて
 〇梅の心はつてつて
 〇梅の心はつてつて

公事存案書に成下程
 有指人仕人先の御法
 法に出入り成南の事
 津に未滿は程と持
 成の指人仕人の御法
 了方一近道と御法
 國東後と成じりて
 寺の御法は成りて
 なるは今日成り

法に出入り成南の事
 津に未滿は程と持
 成の指人仕人の御法
 了方一近道と御法
 國東後と成じりて
 寺の御法は成りて
 なるは今日成り

公事存案書に成下程
 有指人仕人先の御法
 法に出入り成南の事
 津に未滿は程と持
 成の指人仕人の御法
 了方一近道と御法
 國東後と成じりて
 寺の御法は成りて
 なるは今日成り

公事存案書に成下程
 有指人仕人先の御法
 法に出入り成南の事
 津に未滿は程と持
 成の指人仕人の御法
 了方一近道と御法
 國東後と成じりて
 寺の御法は成りて
 なるは今日成り

とる方何れに於ても
残るる玉に在りて
律に万人の心を
當年も例に法を
去は得ず必らず
有名に向ふ法名
水無味も亦不
と津有る心は
列を以て法條
思ふに由り別して

ねどくろりたる人
多うはあまの
も何れもの
として法に
もくもれけり
はさるる
こびと有る
てよるを
はまもぬに
びくたる人

晴ヶ百友後
才深博く
てしと神
とホ下杜
伝事也に別

もくろ。林
アれども
そよはる

○同也

ふ者も小人
成下ケ
有た
抄念

○同也

よのひ
うか
かう

たふし中々改らま
依り自れ子くはなれ
よまぬるまはつ時
雨風子改らま感しハ
改はなれし付せり
は早急ら山は代り仕
名は物事やんハ
い俊をなれしは
さし上ははれし
何時まは代り仕

うもあはれさ
ううはれなれれ
しははれし
けはれし
さあし
くれす
さうう
さふ
か
い

か
芳
い
ま
推
内

○同

は
身
は

ま
ま
か
か

○同

は
は
は

とちりゝみ辱まなぐる百
 家内が百連まゝ一ぼん
 舟去つた船も舟も舟も
 葉も舟も舟も舟も舟も
 何んか舟も舟も舟も舟も
 揺るゝは舟も舟も舟も舟も
 舟も舟も舟も舟も舟も
 舟も舟も舟も舟も舟も
 舟も舟も舟も舟も舟も
 舟も舟も舟も舟も舟も

をぬく。舟の七葉も舟も舟も
 り舟のまゝ一しりしりしりしり
 りしりしりしりしりしりしり
 りしりしりしりしりしりしり
 りしりしりしりしりしりしり
 りしりしりしりしりしりしり
 りしりしりしりしりしりしり
 りしりしりしりしりしりしり
 りしりしりしりしりしりしり
 りしりしりしりしりしりしり
 りしりしりしりしりしりしり

恙雨天、お坐りり人合也
 又、法業内言、と云ふ

○筆を絶つ文

法なるもの新葉中は法柱
 と筆を絶つた人合也
 舟も舟も舟も舟も舟も
 舟も舟も舟も舟も舟も
 舟も舟も舟も舟も舟も
 舟も舟も舟も舟も舟も
 舟も舟も舟も舟も舟も
 舟も舟も舟も舟も舟も
 舟も舟も舟も舟も舟も
 舟も舟も舟も舟も舟も
 舟も舟も舟も舟も舟も

たつともすえはさくしりしり

○筆を絶つ文

と筆を絶つた人合也
 と筆を絶つた人合也
 と筆を絶つた人合也
 と筆を絶つた人合也
 と筆を絶つた人合也
 と筆を絶つた人合也
 と筆を絶つた人合也
 と筆を絶つた人合也
 と筆を絶つた人合也
 と筆を絶つた人合也
 と筆を絶つた人合也

持たしはさしおけり申す斗
大考の事なる方協は様事
速く申すは傍に申しお
申すは多飛中次を法を依
久しう教をいけ杖をい
以後は申すてめし申す
申すは法に依りて申す
有し依りて申すは法を
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す

申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す

又法を申すて申すは法
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す

申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す
申すは法に依りて申す

〇同ね

申すは法に依りて申す

〇同ね

申すは法に依りて申す

縁に与位果くせり。はは
 活せぬ。昔付を存せぬ
 活せぬ。此を世にせぬ
 後と下は厚き。はは
 厚きを。はは。新
 膏を。はは。はは
 世も。はは。はは
 及。はは。はは
 五。はは。はは
 手。はは。はは

世も。はは。はは
 及。はは。はは
 五。はは。はは
 手。はは。はは
 世も。はは。はは
 及。はは。はは
 五。はは。はは
 手。はは。はは

活せぬ。昔付を存せぬ
 活せぬ。此を世にせぬ
 後と下は厚き。はは
 厚きを。はは。新
 膏を。はは。はは
 世も。はは。はは
 及。はは。はは
 五。はは。はは
 手。はは。はは

世も。はは。はは
 及。はは。はは
 五。はは。はは
 手。はは。はは
 世も。はは。はは
 及。はは。はは
 五。はは。はは
 手。はは。はは

ふ身怒く欽白

らんねがくは人ぎよなりてはうつちと
となちんやういこ

○同也

○同也

好多きは入るまを耳
陣白は面白は顔威
伏座下は通方集安
輝傍方く之を路私
い貝の負と又公海と和
中なるく又付ケ積やと
りほも志ふあゝああ

ちねたまもれと何ぞめいこあふんをね
さくれさううねがーとわさうれど
のこまりさうやうに。女社のあうい
おのどーはひさぐあれど昔のーれ
さちもたのせーかぶげあんううさ
うもあめがうかーさうははれど。げどか
げどくこいもたのいあううと

と入るがわは取れ

あまの傍まをさうけし

はれ今と成及冬積方

うとくうけしん。ねやうたのこ

くは海まや向て有て哉

そまうたのうれ。さくひー

此際ま秋も同様と後々

うよを付れど。うあはこ

なるく玉掛はま浮舟

下うはせ。ふむいさ

流り積まはたは古

たんをよまはま。はあ

歌も俵有と通系向い

かひみのー

はま鎌念まお茶向作

あのみくはあよう

得た又鎌をせし服あ

のまうらあれど。ち

と初は移替りはり別

ともわうともん

人万善通く其法は
 在るく、及日考き事と
 欲く冬日の暑氣を欲し
 りても同様に法は在る
 にも、其考積方ホハ、
 物と考るく、大く其相法
 下中、いふ及、法は、
 法、中、い、傳、物、知、教、
 和入、同、他、は、法、を、用、
 成、下、九、持

何つても、わびて、た、つ、め、を、
 かくれ、ど、ふ、こ、を、な、ん、
 され、あ、つ、つ、つ、つ、
 の、か、つ、つ、つ、つ、
 ても、つ、つ、つ、つ、
 つ、つ、つ、つ、
 ん、つ、つ、つ、つ、
 と、つ、つ、つ、つ、

○あははは文

右法、別、法、は、
 法、取、ま、
 忘、法、
 法、
 授、
 存、
 法、
 又、
 教、

○故郷は文

馬の、
 は、
 び、
 け、
 ち、
 た、
 る、
 一、
 の、

雑言用文草

下三九

暇なく親を推かす中、
伏し昔く街を歩む時
り者くは家送は度存
あは侍様部と必員
衣具おも麻相付と云く
子介遊女按摩手おも相
依り何一ふ自由と云く
存なくは昔なれど忘く
人情と云は已と物と面白
付悲あは付ふ存出は後

しうなてかぶとさかどもとせとめかき
女どもをさくくくくくよぞくむるに袖をひ
うれて若きバヤがてまらうどわいひきて
らひ一志あさうつがくゆきをさうれも乃
まうてまうくくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
一よづまもけりはうくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
ろづあうれくくくくくくくくくくくくく

七云く時又黄昏ホと地
く人故く帰もく件を思
文は七教話能なり物
はたはく情はたまふと
下の世去とくくくくく
きくく格のぬと度得半
さ交便付一筆目と
やん下世はて

お々のくくくくくく付もはくくくくくく
だうれくくくくくくくくくくくくくく
まはひくくくくくくくくくくくくくく
れくくくくくくくくくくくくくくくく
又くくくくくくくくくくくくくくくく
ぞり。人ちくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくくくくくく
おをなまうや。くくくくくくくくくくく
足のかせおくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく

○川さうさうは文

昨宵の夕さふと白川
川は流れお城を越え
ふらふらと舟は川
流るかたし中ハ鳥
お推し向せある様
教中同伴は秋空
中ハお花の勇姿
及物なるも愈快し

○川さうさうは文

たうりにふるふんあか
よきのゆづりてぐ
にうさうさうは
さうさうさうは
さうさうさうは
さうさうさうは
さうさうさうは
さうさうさうは
さうさうさうは
さうさうさうは
さうさうさうは

付は回る飛出かぶるを

一瓢の飲月を夜を
くも雲を海橋の料理
ふ一秋お花も又一舞
を春の物色を封者
丸は川を流る舟は
めく二めく保貴を
何事は回るさうは

○疱瘡見舞の文

いそお何うもさうは

さうれをいさよふれ

はつとれさうさうは
くも又はさうさうは
れさうれさうさうは
がもさうさうは
ちげさうさうは
やれさうさうは

○疱瘡見舞の文

いそお何うもさうは

ふん更が家内丸水病
掃中一之之神欄作
字之法傳云云と云を
採るに中叔は五紙
採は瘵瘵と云は合
年必は序執方日刻
文字は瘦と云のり
身中一後隊り公を
必更に下を叙は輕瘵
付の在るに其の法

よぶらうあのをうれけりよれえなり
法杖がうと何うもゆよとてなご。かろく
しうもてつうもくまうつん。は日たわ
くうたわんしものゆしうて。けうし
たの甲の夫れをうきの法ふやとてう
おをけん。つうもくまうつん。は日たわ
たすうまきぎなりん。ぐああものむごうや
えうまうんとびうむ。まぶらうまやめや
くしうごう。なごうおやま人もなきを。
れがうひさうかろくうに物。なごう

は俊と云を呼はあふは
大平と云の在るに其を
小之病と云の記を
何事は辨と云の言未
は採と云の記を
り中採るに其を
をあの記を
他と云の記を

ん。つうごうれいとまひうえごう
と。人まうとておやとおえ
たうおまうとておやとおえ
こ。はかまうとておやとおえ
い。はかまうとておやとおえ
う。はかまうとておやとおえ
た。はかまうとておやとおえ
人。はかまうとておやとおえ

○醫書 呼吸令の支

○醫書 呼吸令の支

<p>小入泥、侍方、一人、 娘、在、不、姉、幼、稚 初、早、老、侍、は、は、は、 百、列、て、家、中、は、は、は、 昔、中、宗、高、女、分、不、家、其、及 痛、は、遂、上、強、打、は、氣、程 仕、背、性、は、肉、投、疲、方、仕 以、百、又、母、は、愁、歎、程、也 是、は、存、く、不、ま、ま、強、強 後、は、存、く、不、ま、中、も、い</p>	<p>何、が、一、人、の、 ち、も、も、も、も、も、も、も、も、 て、も、も、も、も、も、も、も、も、 た、も、も、も、も、も、も、も、も、 つ、も、も、も、も、も、も、も、も、 だ、も、も、も、も、も、も、も、も、 の、も、も、も、も、も、も、も、も、 う、も、も、も、も、も、も、も、も、 を、だ、く、母、を、は、ま、や、も、て、 かい、は、れ、ど、い、づ、を、も、も、も、</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>と、家、持、は、も、も、も、も、 是、年、老、は、付、も、も、も、も、 即、是、人、醫、有、は、無、良、を 以、氣、汁、是、も、も、も、も、 外、醫、を、求、や、時、非、は しか、持、持、持、等、も、も、も、も、 立、止、ね、返、り、形、も、も、も、も、 積、お、か、ん、え、も、氣、も、も、も、 七、年、に、は、彼、醫、を、求、 繼、ふ、中、自、負、は、油、を</p>	<p>何、も、も、も、も、も、も、も、も、 も、付、も、も、も、も、も、も、も、も、 る、も、も、も、も、も、も、も、も、 を、お、も、も、も、も、も、も、も、も、 た、も、も、も、も、も、も、も、も、 ね、も、も、も、も、も、も、も、も、 ど、も、も、も、も、も、も、も、も、 り、ゆ、れ、ど、心、も、も、も、も、も、 は、も、も、も、も、も、も、も、も、 わ、り、も、も、も、も、も、も、も、も、</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ふく茶を傍分海使は我
儀も難生茶玄園今作
依言海汁之や茶使は
度るは其小せ彼家之在
は其外は用とるを五振
之同ふは尋と下は儀を
おけし百委びたけも存
尋せは茶味は体は板
華は後付は醫業を記
は茶味或は板は相成

もたべさうたなむとくこのやうは
きと。何ギーがこういふつら
づねおちて。おとねいんまを
ドヤ。こゝろざやくやくつた
よてあつドよゆえ。やうくど
てだつをせしめ付しんとなん
まよる。けてせんもく茶と付し
うぢ。まゝの仏とくおまけえめ
う思うたまうたれつ何ギー
名とおどして何がかとまきつ
けおぎ

はり講の以平懐く金粒
有は今も茶をくけ後存付
依小せ茶位は情茶之成下
何事せんや。は茶をえは作
まじ茶下五條も茶作
上作は

ことやりきあつたまうた。おれう
○火事入る條の文
つらつら。おどろつつをたまひつ
つらつら。おどろつつをたまひつ
おどろく。はたなかりとて

○火事入る條の文
はくは茶をくけ後存付
有は今も茶をくけ後存付
依小せ茶位は情茶之成下
何事せんや。は茶をえは作
まじ茶下五條も茶作
上作は

○火事入る條の文
つらつら。おどろつつをたまひつ
つらつら。おどろつつをたまひつ
おどろく。はたなかりとて

は利をぬく秘女は怪我ホ
と宿く可成をぬくは其は
とまきく橋後堤切水押
入るもはははは付成入
は葉一かは後まをた將
又は并ア不ゆる五本并
ハは月水は困るははこ
ふふ放舟言一艘内舟運
中く煮焚ホく後まは老
廿二と長付く程又は不

とらふきぢれど。ポーもつらうつるお
んごうろの橋もなぐれて。堤を水のわ
崩しはるれど。人のつらさをゆゑも。おぢ
るまを。せどぢが。はる井のら
すつん。又ハれ。や。た。な。ふ。と。う
なん。じ。と。よ。ね。と。ち。あ。つ。れ。ま。う。く。は。こ。ぢ
せ。け。る。ぢ。う。の。の。ぢ。れ。ど。も。は。も。れ。ど。と
よ。の。さ。ま。い。つ。ら。き。ま。う。う。う。程。あ。つ。れ。れ
が。い。と。ん。く。さ。ま。い。ぢ。も。は。い。と。う。と。う。と。う
う。付。く。ち。雨。を。ま。つ。れ。ど。と。志。ぢ。う。が。程

自由く後まをぬくは
は才分潤をてはらふは
天のうらみは年同く暫く
は堤思を存なくはは
交り付水ハ大小川と益
光後おと中ハ一村家
其は皆を押流は場所ホ
も有るは流帯代は後まを
ぬくはははは

あへけをたふや。さ。び。の。わ。ぢ。だ。れ。ぢ
小さま川にありつれれ。あ。ま。あ。う。ぱ。う
ことうや。一。き。と。ご。う。あ。ま。あ。く。と。う。あ。れ
と。う。れ。ど。も。ぢ。う。と。お。す。け。り。と。う。あ。ま。あ
な。ま。あ。ち。や。ゆ。た。あ。う。つ。だ。よ。う。と。う。う
う。と。う。う。う。う。う

○金子借用の文

○金子借用此文

い通ま子めは持は集ま
ふ下ふまあくまま枝
まま入らば廉抹の海
青島上りかへんよ

○青楼かまの文

まにま言は物まは
はくま言向はあは
まを更利く俊おまは
ま付く物まは利おま

けりまゆーはくまませかにはあま
のまにくまのまあま
まいんがま。まままはま
うま。まま。まま。ま
ま。ま。ま。ま。ま。

○青楼かまの文

ままま。まま。まま。ま
ま。ま。ま。ま。ま。ま
ま。ま。ま。ま。ま。ま
ま。ま。ま。ま。ま。ま

程おやてま。まはま
ま。ま。ま。ま。ま。ま

ま。ま。ま。ま。ま。ま
ま。ま。ま。ま。ま。ま

ま。ま。ま。ま。ま。ま
ま。ま。ま。ま。ま。ま

ま。ま。ま。ま。ま。ま
ま。ま。ま。ま。ま。ま

ま。ま。ま。ま。ま。ま
ま。ま。ま。ま。ま。ま

ま。ま。ま。ま。ま。ま
ま。ま。ま。ま。ま。ま

ま。ま。ま。ま。ま。ま
ま。ま。ま。ま。ま。ま

ま。ま。ま。ま。ま。ま
ま。ま。ま。ま。ま。ま

ま。ま。ま。ま。ま。ま
ま。ま。ま。ま。ま。ま

ま。ま。ま。ま。ま。ま
ま。ま。ま。ま。ま。ま

早く案内ふはらゝ大に
 愛の寒りと成る計
 且又は艱負くが奴幫
 百かもさふとさふ面白
 持又さくは付中を使人
 は入許の後さゆは侍り
 ちや斗の娘さふと品徳は
 りたの通はさるはいと
 映は法蓮仙はさる由
 はた入のさるは侍り

くはけらぶく。はな一さふ白拍子
 くれだ。はなさるは侍り。はな
 おうぶさふさふは侍り。はな
 おんさふさふは侍り。はな
 のさふは侍り。はな
 さふさふは侍り。はな
 ん。はなは侍り。はな
 さふさふは侍り。はな
 さふさふは侍り。はな
 さふさふは侍り。はな

素ははらゝは別を早

こ

○喧嘩核移の文

ふささくは痛さをとむら
 何の在るは法事候は何
 復は後にもさるは療
 治はく教書師と中を法
 去津は思ふもふら為法後
 ケ候は法是科と也何は後
 他人も存上は候は後付

○喧嘩核移は文

たぐらふははさるは侍り。はな
 さふさふは侍り。はな
 何をかひさるは侍り。はな
 れど。はなは侍り。はな
 那のさふは侍り。はな
 はんと又は侍り。はな
 いふさふは侍り。はな

此はくは井改く非は相
みんとて何事経使お海
と扱は扱扱し後随くね
お中の付は随やう後内
たふお料業料お中ふ
及譯文一格是と為はと
誤法文お思ひく愈快
後随をまゝく思ひに寄
て看くか一応を因経せ
と事とて仕く同法を考る玉

ほつひをわうぶかさて。らや平ちれあうー
づかかをけしき。ぼつぐくーくくくく
りうととなん。おもうたまふうたい。侍
ん。ごくーまた平はるにうん。はいつくちや
がてはうーらて。うけく平はるぐくくく
ー

てら下りこら

○芝居貝物の文

月くく二幕雨晴敷き人ふ
中物林麦打拙法はたし不
何は入雲流と格し雨天
そんく鬼角芝居一兼物
はたぐ依る芝居又物有付
は百法因るはるまを為
時大坂下り有名く収者お
もたしく天袖記は管原侍扱

○芝居貝物の文

おしてあおとかたはらあしうこれぐくま
かまらうくーまぶ。いろうし物拾うんか
そにはいよやくといふ。まびんぐくまざんを
かろれたれき。あかりていなるやいざな
一。此。此はのわぎをまをれががらうま
おどいてまびんけくわめくあめ拾うた。麦
系のおもはそちにはあて。ぐくく下りあは
を平びいていんぐう。いんぐくまざんを

と相て持くか持お互方
大いゆや唱れおふ一ふせ
又物よ及も仰り偏居し
根もなる。此去物おふら
云はれは百は傍りゆと
本又なる。五回を後を
り田系ハムも後様系と
業おはれと仰りお物お
子お持しと後おおれ
侍りお物おねと為り田系

いといはてはやこ。さだまなどいこおさう
おむと飛いふも。もがた及たなげんせんとい
かめおやぼだれいふといつがとておんくーこ
ふれついでいふやんさなる。げんぐくとは
かくととをたがらふ入まどやておんた
いごうとてつこ。おんさぐはあごーわ
ぎのやうふれりあるさ。おやぐよおはや
さいつぐはん。むくーお拍子かおれま
後おー月くは。いふいんかーま
さ。いごうとてはるのやうに。いごおだ

と月源を拍子と有る
と能くおて有るや刀玉
月腕を敷せしとふ玉又
海も是し敷せしと輕
業を有るてあつた
おはのぬまおんお持肩之
首もまはる後おがらつと
ふんお生るお油いこ
○角力具物の文

おはーおびさるうた。いこをい
めよゆえはきぐれど。いよおまこ
又いでたまぶ
○角力尺物の文
くーのていくのうかまらこ。おらち

皆極法機經支とあふか
 其正授也所法卷と支道
 法東務しは後にもなは
 別あハ使若者法をさ
 上法世は法を法教合
 法昔法上の法入る
 ね又物と若者之後あ
 と法は其後の中一
 曲る極厚を教の上
 法

くはくともいふ
 ぐやちとていふ
 わうとていふ
 んとていふ
 ちとていふ
 うとていふ
 りとていふ
 りとていふ
 りとていふ
 りとていふ
 りとていふ

私る居在行其も
 念あは法年
 法俗重何
 くの
 中下地
 法度
 罪
 七
 有
 人

くばくと
 ぐと
 ばち
 ん
 が
 お
 ち
 ん
 ん
 ん
 ん
 ん

わつ津流め大人きわんよゆのま
 もあくあひしり〜みあひ〜ま
 き〜あちと〜れ〜あか〜あ
 ーあ〜だま〜る〜あよあま
 そ〜と〜ふ〜の〜ち〜と〜あ
 人〜と〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 月あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 ーあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 ひあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 こ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

よーをささりふてさめいしよ
やーるはささるめいしよさめい
またささるめいしよさめい
ひらくささるめいしよさめい
さめいしよささるめいしよ
さめいしよささるめいしよ
さめいしよささるめいしよ
さめいしよささるめいしよ
さめいしよささるめいしよ

あふふふふふ

古谷古子

律居黒澤翁満大人著述書籍目録

古今集大全

顯注蜜勘を始てして餘枝打聞遠鏡等其外諸先達の説どもと其要を括して漏さば出し自の説とも加へて僅四巻ふはくまやかにかにせらまよる古今註釋大成外書外也

言靈の志るべ

此書を上中下三巻として上巻ふを詞の活らきを辞の結ひとかたはけりひの三ツをいとく早道よ知らるる法則を立て初學の爲せし中巻にを辞の數凡そ四百餘ありを盡くつて皇国の五十音の其義を解りかし下巻ふを悉曇韻鏡と列て音韻言辭の學において此書に備らばと云ふ

源氏百人一首

源氏物語中の人物ある限を出して一人小歌一首つくと
らむをたのづらうら一部の趣の志らるやうに標註を加へ
べき書あり

獨學綱

歌や云物いまし曾て知らぬ人の早道ふくも習ふべき學び
りしを記して見るべき書物と頻々奥儀ふ至るまで道
引て風体の事と論じ惣て法則は傳らざるやう廿一代
集よ百千餘首の活氣ある歌どもを抄出して註解を加へ
證さきたる書あり

道行振

こそ古書どもに見えしる免づらしきふしと見るに志
しむるひて書とめおられたる隨筆あり

消息案文

上卷は俗事をぞとせうそこぶに書べき案文をばぞ又其
文言につかふべき雅言どもと部分して多く出し今の俗
語ふあて見安きやうに注解を加へ下卷は古き日記
物語ふ出する昔れ消息ぶとある限抄出して俗文の手
紙は翻譯し雅俗二章つと並べらむと消し消息文書習
ふに必要の書あり

北勢古志

伊勢国風土記の殘篇を根て桑名貞弁朝明の三郡は
内和名抄の郷名神名帳の神社等其外古きあともと今
おありかしたに引合せて委し細らふ正されしる書あり

作文要書

世は井川の序土佐日記おど和文の根元のやうにい
へども誠の和文を太古の祝詞宣命の類ふて中頃漢文の
為にこそを書事しと後よいと源氏の物語あどの頃
今も清古へ復したる物のしと細らふ證してかか書
の漢文を誠の和文を並べ論ざらむたれど古文章と学

ぶにも中古体と書習ふにこそ座右に置いて便なる書なり

神道學則

神道を皇國の大道小して並に神道者と云て鈴ふるもの
の類よりらば公の御政より下方民の並渡りて事々物
物神道よりあらざるをふき事と古書小證し身の教を成て
くをらまきたるあり

雅言用文章

此書を年始暑寒五節句中元歳暮の贈答と始て冠婚葬祭
の類其外病氣見舞喧嘩の挨拶道具質入金銀借貸奉公人
請状小至るまで日用の俗文と雅文より翻譯して雅俗二章
つゝ見合の爲にいせ、多く出したまきど和文といふ物聊
も去らざる人よりて是と手本とをれどいりぬる俗用と
と雅言に書得らるる書なり

浪花職人歌合

此書を左右に方と分ちて一番くは左右に方人どち互ふ歌の非
難と論しつひ判者其勝まをを定るにとりしきおもむき有書なり

發行

書林

江戸日本橋南壹丁目	須原屋茂兵衛
同 淺草茅町二丁目	同 伊八
同 日本橋通二丁目	山城屋佐兵衛
同 芝 神明 前	岡田屋嘉七
同 同	和泉屋吉兵衛
同 下谷池端仲町	岡 村庄 助
同 本銀町三丁目	永樂屋丈助
同 卜 軒 店	英 屋大 助
京都三條通御幸町角	吉野屋仁兵衛
尾州名古屋本町通	永樂屋東四郎
同 同	菱 屋藤兵衛
大阪心齋橋通北久太郎町	河内屋喜兵衛

